

# 図書館だより

武雄高等学校 図書指導部  
令和4年3月11日発行  
最終号



今年度もいよいよ終わりですね。この1年間でみなさんは何冊の本を読みましたか。心に残る本と出会えたでしょうか。

瑞々しい感性を持った高校時代に、一冊でも多くの本を読んでください。知は力なりです。今年度読んでない人は、来年度はたくさん借りて読んでください。

## 《令和3年度 武雄高校図書館 目標と達成状況》

《2月末の集計》

### ① 貸出総数 3,500冊以上

学年別 貸出総数は、1年：1,027冊、2年：1,369冊、3年：869冊でした。

貸出総数3,265冊・入館者数は、3,550人でした。

残念ながら、今年度の目標冊数には届きませんでした。

### ②各クラス70%以上の生徒が貸出冊数2冊以上

達成したクラス数は、1年生が1/6クラス・2年生3/6クラスでした。1年生は、あと一步で目標達成クラスがありましたので、来年度はぜひ70%以上をクリアしてみましよう！

2年生は、来年度は受験生です。大学共通テストの難易度が上がり、「読解力」「語彙力」が要求されています。日頃から読書をする習慣を身につけましよう。

### ③生徒1人あたり年間貸出5冊以上

1人あたりの平均冊数は、1年生4.4冊/人、2年生6冊/人、3年生3.8冊/人でした。1年生は、あと一步です。3年生になると読む時間がありません。ぜひ来年度は更なる読書の時間を。2年生は、この調子で、小論文対策として「新書」「岩波ブックレット」などに挑戦してみてください。

## お知らせ・お願い



### ① 3/24から蔵書点検を行います。

3/24~4/5は蔵書点検並びに新年度の準備のため貸出ができませんので、春休みに本を読みたい人は早めに借りに来てください。

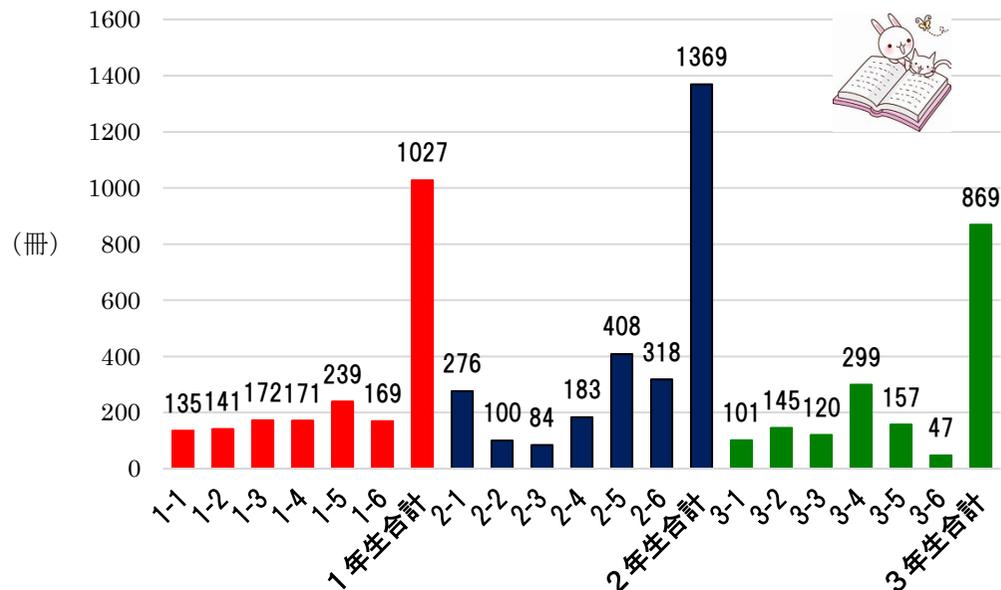
返却は随時可能です。

購買部前の返却BOXまたは、図書館の出入口に返却BOXを用意していますので、そちらにお願いします。

### ② 新年度の本の貸出は、4/6の始業式からとなります。

③督促状を配布しますので、長期間延滞中の人は今年度中に返却してから新たな年を迎えましよう！

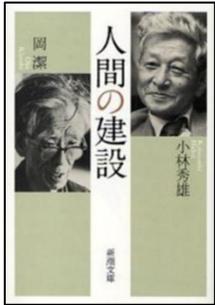
## 令和3年度 クラス別貸出総数(4月1日~2月28日まで)



# 新刊図書案内

今年度の新刊図書案内は、最終号となりました。  
今現在、購入本・寄贈本などを含め460冊を超えています。春休み期間に読んでみてはいかがでしょうか。

## 『人間の建設』 小林 秀雄/岡 潔【著】



有り体にいえば雑談である。  
しかし並の雑談ではない。文系的頭脳の歴史的天才と理系的頭脳の歴史的天才による雑談である。  
学問、芸術、酒、現代数学、アインシュタイン、俳句、素読、本居宣長、ドストエフスキー、ゴッホ、非ユークリッド幾何学、三角関数、プラトン、理性…主題は激しく転回する。そして、その全ての言葉は示唆と普遍性に富む。日本史上最も知的な雑談といえるだろう。

## 『みんなで学ぼう学校教育と著作権 - 著作権の基本から指導まで』 森田 盛行【著】



全職員、全教科で取り組む「著作権教育」をどう理解し、指導するか。  
学校教育上知っておくべき著作権の基本解説。  
発達段階に合わせた体系的・計画的指導略案も提示。学習指導、情報活用指導等、現場で直面する37のQ&Aを収載。

## 『コンビニ兄弟〈2〉 テンダネス門司港こがね村店』 町田 そのこ【著】



大切な想いをささやかにつなぐ場所、名物店長と個性的な客たちが集う小さなコンビニの心温まる物語。

## 『水の仮面』 塩田 武士【著】



小学四年の春、同じクラスになった真壁君の顔を見たとき、翔太郎は恋のきらめきと痛みを知った。小さな希望すらも打ち碎かれる人生。  
仮面の下、ずっと女の子になりたかった。  
終章、二十四年後の春に明かされる優しく美しい秘密とは。  
生きてゆくことの切なさに共感せずにはられない感動の青春恋愛小説。

## 2022年 映画化 『とんび』 重松 清【著】



父親は、悲しみを飲み込んでいく海になれ…。  
昭和37年の夏の日、瀬戸内海の小さな町の運送会社に勤める“ヤス”に息子アキラ誕生。  
家族に恵まれ幸せの絶頂にいたが、それも長くは続かず…。  
高度経済成長に活気づく時代と町を舞台に描く、父と子の感涙の物語。

## 『残月記』 小田 雅久仁【著】



近未来の日本、悪名高き独裁政治下。  
世を震撼させている感染症「月昂」に冒された男の宿命と、その傍らでひっそりと生きる女との一途な愛を描ききった表題作ほか、二作収録。  
「月」をモチーフに、著者の底知れぬ想像力が構築した異世界。  
足を踏み入れたら最後、イメージの渦に呑み込まれ、もう現実には戻れない。

## 『薔薇の名前〈上〉』 ウンベルト・エーコ【著】/河島 英昭【訳】



迷宮構造をもつ文書館を備えた、中世北イタリアの僧院で「ヨハネの黙示録」に従った連続殺人事件が…。  
バスカヴィルのウィリアム修道士が事件の陰には一冊の書物の存在があることを探り出したが…。  
精緻な推理小説の中に碩学エーコがしかけた知のたくらみ。

## 『僕とアリスの夏物語 - 人工知能の、その先へ』 谷口 忠大【著】



AIと共存する未来とはどういうものか。「発達する知能」は、いかに実現されるのか。  
小説と解説の合わせ技で、いざ、めくるめく知の融合体験へ！